

2023年1月～12月

# さいたま発掘情報



## 墓の主は誰だ！

### 1 ナンバー 13 号古墳 (上里町)

上里No.13号古墳は、児玉郡上里町大字神保原町に所在する直径20m、高さ2mほどの円墳です。町教育委員会では令和4年から5年に発掘調査を行いました。調査によって、石室や横倒しになった状態の埴輪が発見されました。特に石室からは、全長90cmを超える鉄刀や馬具、鉄鏃、勾玉等が出土しました。また、見つかった埴輪の多くは円筒埴輪であり、6世紀後半頃(約1400年～1450年ほど前)の特徴を持っていました。そのため、古墳も埴輪と同じころに周辺を支配した豪族によって製作されたものと考えられます。しかしNo.13号古墳の周辺では、6世紀後半にあたる集落遺跡は見つかっておらず、古墳の主や古墳づくりに関わった人々がどこから来たのか、謎は深まるばかりです。



調査区全景



勾玉  
出土状況



埴輪出土状況



鉄刀出土状況



石室

調査機関・文：上里町教育委員会

縄文時代の集落跡を発見！

2 とのやまみなみ 殿山南遺跡（桶川市）

殿山南遺跡は、JR 高崎線桶川駅から西に約 2.5km に所在し、江川につながる小支谷をのぞむ舌状台地上に位置しています。今回の発掘調査では、縄文時代前期から中期にかけての集落跡が見つかりました。

縄文時代前期の竪穴住居跡は、5 軒が重複して発見されました。竪穴住居跡からは縄文時代前期中葉から後葉の土器が出土しました。

縄文時代中期前葉の竪穴住居跡内の土坑には、180 点もの礫や石器がぎっしりと詰め込まれていました。その横からは、ひとつの土器がおしつぶされたような状態で出土しました。



重複する竪穴住居跡（縄文時代前期）



調査区遠景



調査風景



住居跡内土器出土状況（縄文時代前期）



集石土坑と土器（縄文時代中期）

調査機関・文：桶川市教育委員会

古代の大集落の一部が明らかに！

3 にしはらおおつか 西原大塚遺跡 第 243 地点（志木市）

西原大塚遺跡は東武東上線の志木駅から北西に約 0.9km、柳瀬川右岸の台地に位置します。特に、縄文時代中期の<sup>たてあな</sup>竪穴住居跡が 200 軒以上、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡が 670 軒以上発見されるなど、その当時の大規模な集落跡として知られています。

今回の調査では、縄文時代中期の土坑 40 基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡 1 軒・方形周溝墓 3 基などが発見されました。

縄文時代の土坑内からは横たわった状態の土器や、別の土坑からは<sup>だせいせき</sup>打製石斧と共に、逆さまの状態の土器が出土しました。

弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡では、多量の炭化材や焼土が検出され、焼失住居と考えられます。また、方形周溝墓は一辺 7～10 m 程であり、市内では中規模の大きさと言えます。



調査区全景



方形周溝墓 遺物出土状況  
(弥生時代後期～古墳時代前期)



遺物出土状況  
(縄文時代中期)



遺物出土状況  
(縄文時代中期)



竪穴住居跡 炭化材・焼土検出状況  
(弥生時代後期～古墳時代前期)

発見！縄文時代の暮らし

4 みやまえ 宮前遺跡（鴻巣市）

宮前遺跡は、高崎線の北鴻巣駅から南東に約2kmに位置します。令和3年度から継続して調査を行っていますが、今回の発掘調査では、縄文時代後期や奈良・平安時代の集落が見つかりました。

台地の上にある縄文時代後期前葉の集落からは、たてあなじゆう 竪穴住居跡のほか、木の実などの食料を蓄えたと考えられる貯蔵用の土壌が見つかりました。

また、谷から見つかった縄文時代の遺物包含層の調査では、約1万4千年前の縄文土器も見つかっています。



調査区全景



貯蔵用の土壌（縄文時代後期）

遺物包含層の調査風景



住居跡（縄文時代後期）

遺物出土状況（縄文時代後期）



調査機関・文：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団